オーディオ実験室収載

Hi-Res Editor の評価(6)
―編集機能(1)―

１．始めに

前報(5)まではフォーマット変換機能を確認しましたが、今回は分割と Combine 機能を試してみます。また、フォーマット変換を繰り返して元に戻した場合、音質劣化がないかどうかも試してみます。

２．Hi-Res Editor の編集と試聴方法

128MHzDSF 音源を選び、前半と後半に分割できるようそれぞれ IN ポイントと OUT ポイントを設定して、2 分割します。その後分割したものを再び Combine 機能で結合し、そういった処理による音質劣化がないかどうか確認することにしました。

分割と Combine した音源は、HDD に収納し、micro iDSD を使用し、次のルートで試聴しました。

PC→HiFi USB →micro iDSD→DA-3000→MYTEK Digital 192-DSD

ここで DA-3000 には ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。

さらに 128sDSF 音源をいったん 256sDSF 音源に変換した後、元の 128sDSF に戻すこともやってみました。

音質評価のソフトは Hi-Res Editor とし、音質評価は次のような音源を再生してみました。

256sDSF 音源→256sDSD 再生

128sDSF 音源→128sDSD 再生

３．Hi-Res Editor の試聴結果

分割や Combine はマニュアル通り問題なく実施できました。

256sDSF 音源と、それを 2 分割したものと、いったん 2 分割したものを再び Combine したものを比較してみましたが、3 者の間に、バランスが崩れるとか、音質が劣化するとかのはっきりとした違いは感じられませんでした。

128sDSF 音源と、いったん 256sDSF 音源に変換した後、元の 128sDSF に戻した音源を比較してみましたが、バランスが崩れるとか、音質が劣化するとかのはっきりとした変化は感じられませんでした。

４．まとめ

ずっと以前に PCM ディジタル音源の編集ソフトを使っていたときは、音質劣化が認

められていましたので、今回もそういったことが起こるのではないかと危惧していましたが、Hi-Res Editor の編集機能はそういったことを明確には感じられず、優れたものであると言えます。

以上